

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	住之江区
学校名	粉浜小学校
学校長名	信貴通子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に关心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・粉浜小学校では、第6学年 51名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率が、国語では6.2%・算数では5.7%・理科では5.2%と、それぞれ市の平均正答率より-3P・-1P・-3Pという結果であった。

【国語】では、「記録された情報を理解する力」「問題文を手掛かりにして自分の考えを記述でまとめる力」に関する問い合わせについて、府の平均正答率を4~9P上回っている。課題としては、「話し手の意見と比較しながら自分の意見をまとめる力」「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力」がそれぞれ、府の平均正答率より10P以上低く、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける力」が20P以上低い正答率という結果となっている。

【算数】では、図形および小数の知識・技能に関する問い合わせについて、府の平均正答率を6~11P上回っている。課題としては、分数に関する問い合わせ、はかりの目盛りを読み取る問い合わせ、基本となる数の何倍かを考える問い合わせなどが、それぞれ、府の平均正答率より4~10P低い正答率という結果となっている。

【理科】では、顕微鏡の使い方にに関する問い合わせ、水の状態変化に関する問い合わせなどが、府の平均正答率を4~6P上回っている。課題としては、身の回りの金属に関する知識・技能の問い合わせ、直列つなぎに関する知識・技能の問い合わせなどが、それぞれ、府の平均正答率より4~26P低い正答率という結果となっている。また、発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想する思考力については、府の平均正答率より5~8P低い正答率となっている。

## 分析から見えてきた成果・課題

### 教科に関する調査より

【国語】与えられた情報をもとにして、自分の意見や考えをまとめる力がついてきていると言える。これは、日々の授業の中での一人1台学習者用端末の十分な活用の成果と言える。課題としては、授業の中で、一人1台学習者用端末の活用のステップアップとして、協働的活用への深化が必要であると考えられる。例えば、グループや班で話し合い活動をする中で、自身の意見や考えをパワーポイントや発表ノートなどを使って伝えるだけでなく、クラスメイトの意見と自身の意見を比較したり、クラスメイトの発表をうけて新しく気づいたことを自身の考えと合わせて発表したり、あるいは自身の意見や考えの理由付けとして必要な情報を自分で探し出し、選び、それを提示しながら発表したりする活用の仕方を、授業改革の一環として取り組む必要があると考える。

【算数】図形・小数に関する力は、概ね定着していると考えられる。また、全体的に、選択回答・記述回答どちらもしっかりと回答できているという結果である。これは日々の算数の授業の中で、回答方法を短答だけで終わらせず、しっかりとその考え方の理由まで考えるようしている結果だと言える。課題としては、分数に関する知識・技能の定着、もとになる数との関係から考える思考力の育成が必要であると考える。

【理科】実験道具の使い方やなどの基礎知識がしっかりと定着している。これは専科制度の推進の中で、理科専科による専門性を生かした授業の成果と言える。課題としては、電流・直列つなぎ・乾電池など「エネルギー」領域の知識・技能の定着が課題であると言える。また、どのような条件で実験を行えば、自分の予想が証明できるのかという思考力の育成が必要であると考える。

### 質問調査より

「自分にはよいところがあると思いますか」に最も肯定的に回答している児童が6.2%、肯定的に回答している児童全体では9.2%という結果となっている。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に最も肯定的に回答している児童は8.8%、肯定的に回答している児童全体では、9.8%という結果になっている。「友達や周りの人の考え方を大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」に肯定的に回答した児童は9.4%と、市の肯定的回答9.0.4%を3.6P上回っている。

自己肯定感が高く、自他とも大切な存在であるということを理解している児童が大変多い結果となった。

「算数の勉強は好きですか」に肯定的に回答した児童は3.6%と、市の肯定的回答56.2%より20Pも下回る結果となった。算数の平均正答率は、市平均正答率より-1Pという僅差であったにもかかわらず、意識調査では大きな開きとなった。

「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」に肯定的回答をしている児童は8.8%と、市の肯定的回答7.5.3%を1.2.7Pも上回る結果となった。

「あなたは、ICT機器を使って、情報の整理をする（図・表・グラフ・思考ツールを使ってまとめる）ことができると思いますか」に肯定的回答をした児童は6.2%と市の肯定的回答6.7.5%を5.5P下回る結果となった。

## 今後の取組(アクションプラン)

教職員一人一人の指導の中で、温かい学校の雰囲気が構築されていると考える。今後も引き続き、自他ともに大切にする人権感覚を重視した学校運営を行っていく。

一人1台学習者用端末はじめICT機器の活用は、日々の授業の中での活用がしっかりと定着していると考える。今後は、一人1台学習者用端末の有効的活用の研究を通して、協働的な学びのさらなる充実をめざし、授業研究を深める。あわせて今後は、学校として一人1台学習者用端末の持ち帰りを推進し、家庭学習においても活用することによって、学びの視野を広げる。



## 【 全体の概要 】

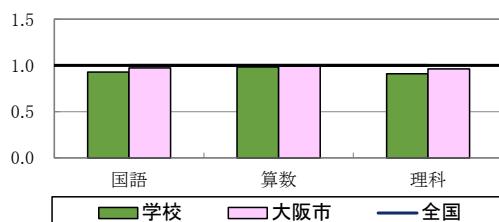
### 平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	62	57	52
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

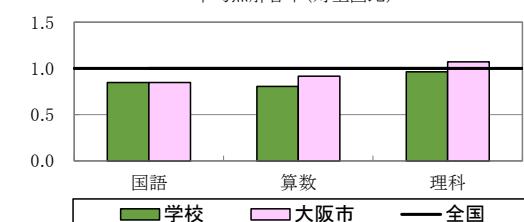
### 平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	2.8	2.9	2.7
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



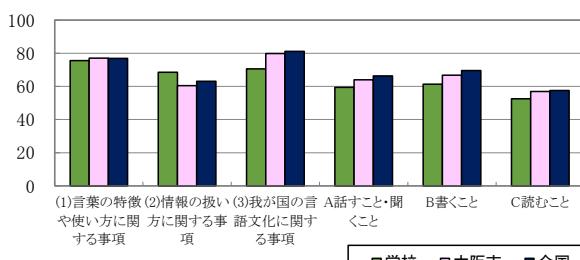
## 【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	75.5	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	68.6	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	70.6	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	59.5	64.0	66.3
B 書くこと	3	61.4	66.7	69.5
C 読むこと	4	52.5	56.9	57.5

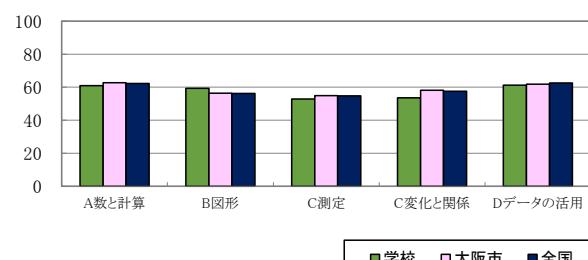
## 【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	61.0	62.7	62.3
B 図形	4	59.3	56.4	56.2
C 測定	2	52.9	54.9	54.8
C 変化と関係	3	53.6	58.2	57.5
D データの活用	5	61.2	61.9	62.6

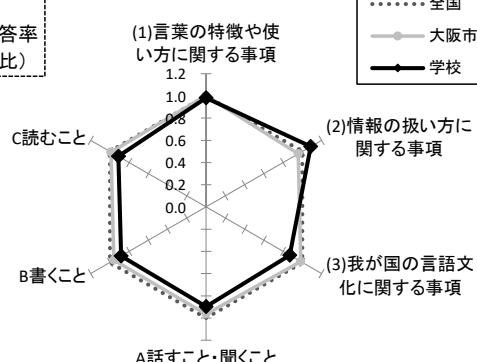
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



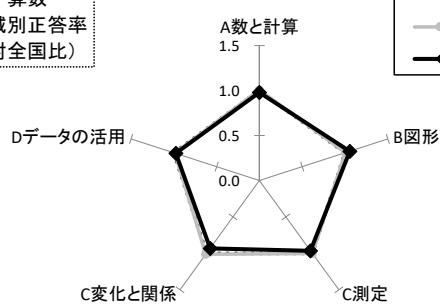
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語  
内容別正答率  
(対全国比)

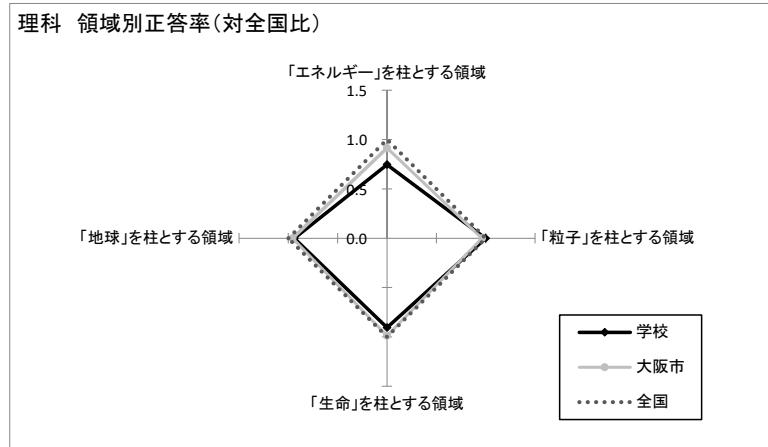
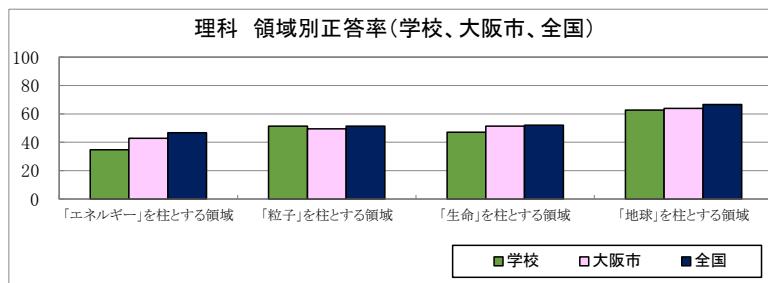


算数  
領域別正答率  
(対全国比)



## 【 理科 】

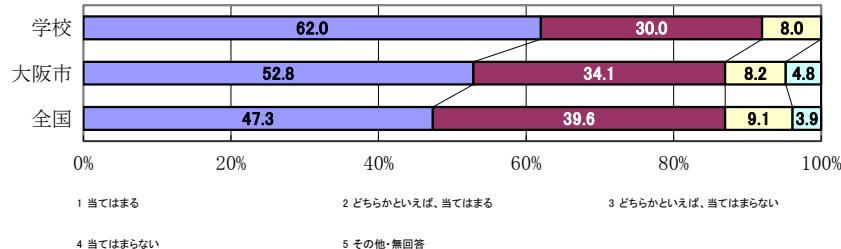
学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 区分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	34.8	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	51.3	49.5	51.4
B 区分	「生命」を 柱とする領域	4	47.1	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	62.7	63.8	66.7



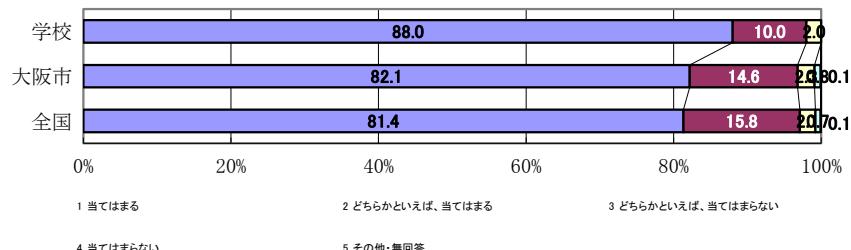
## 児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

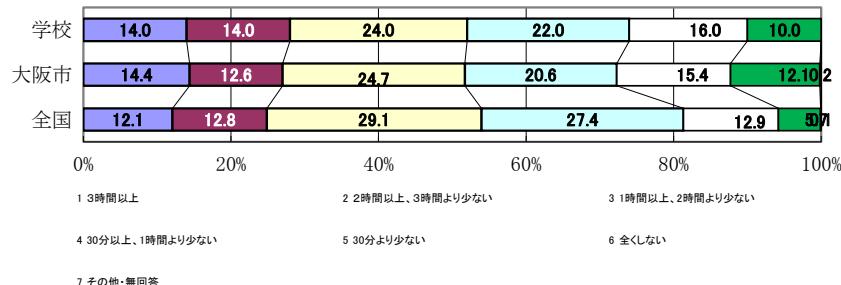
質問番号
質問事項
5
自分には、よいところがあると思いますか



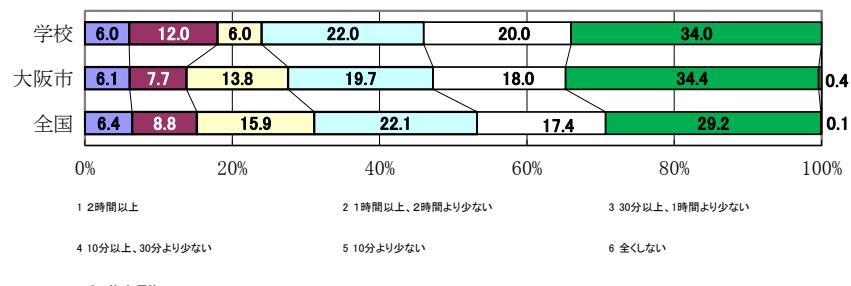
9
いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



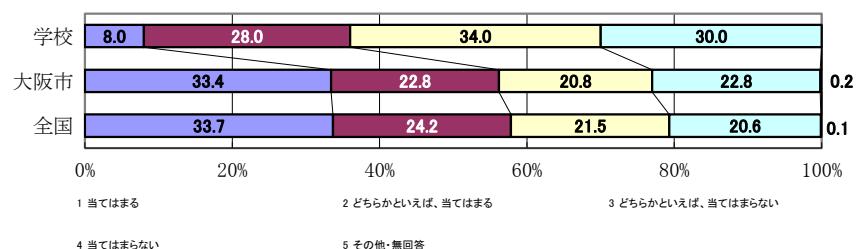
17
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



21
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)



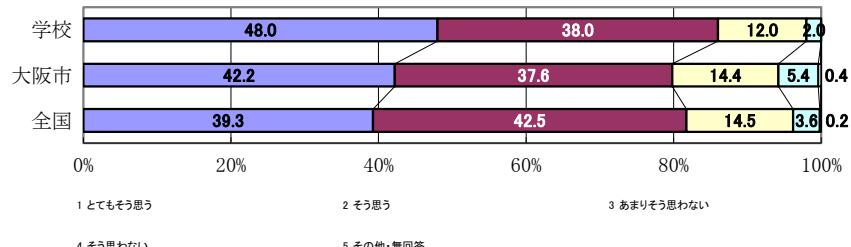
53
算数の勉強は好きですか



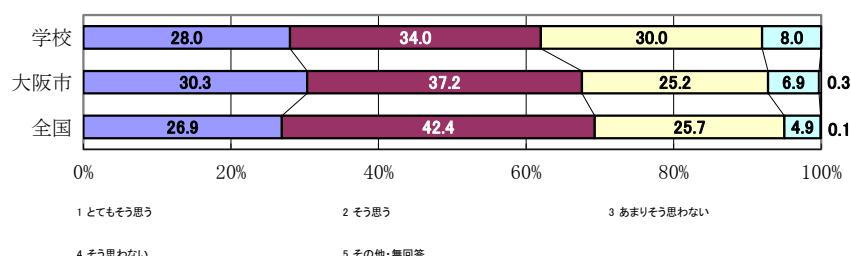
## 児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

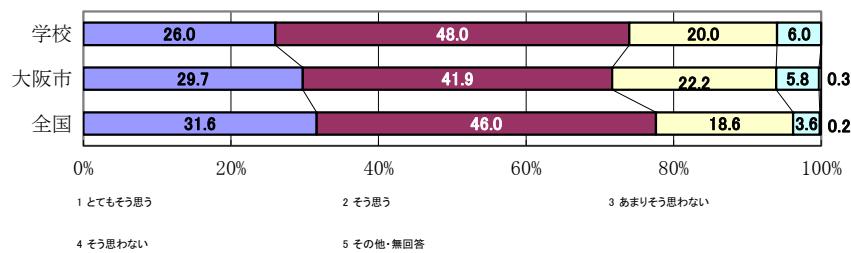
質問番号
質問事項
72
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができると思いますか



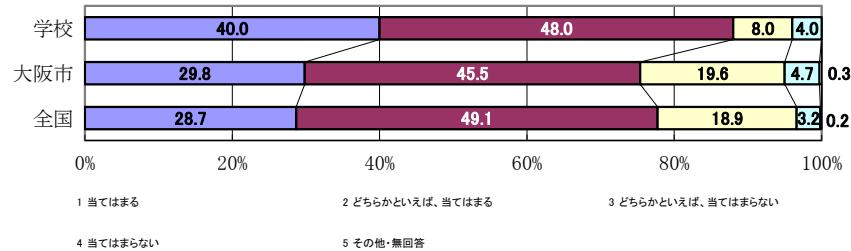
74
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか



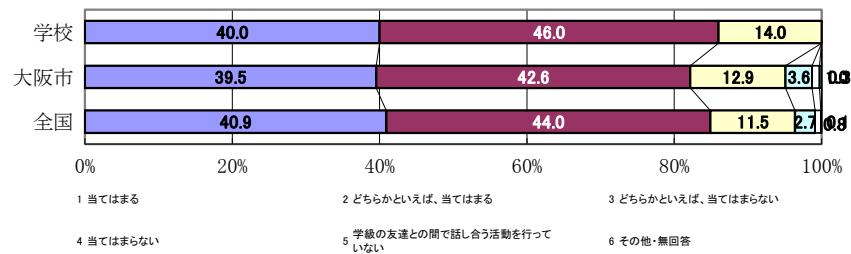
80
5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(5)自分の考え方や意見を分かりやすく伝えることができる



33
5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考え方をまとめる活動を行っていましたか



35
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考え方を深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができますか



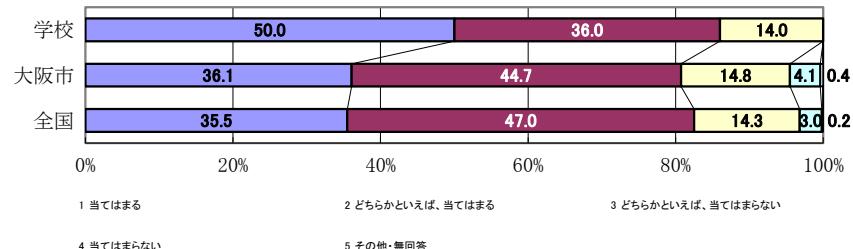
## 児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

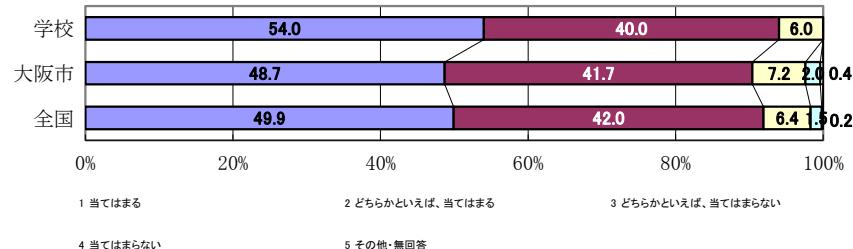
37

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか



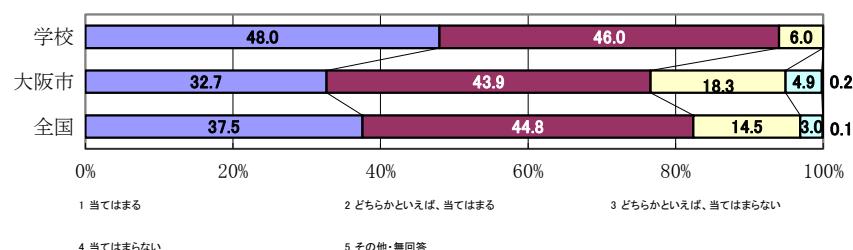
39

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



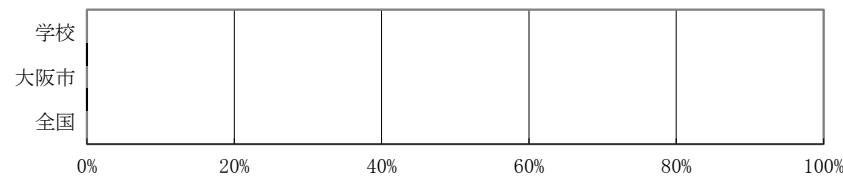
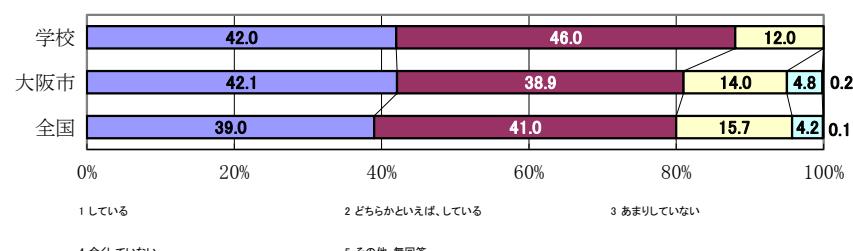
40

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



71

健康にすごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか



## 学校質問より

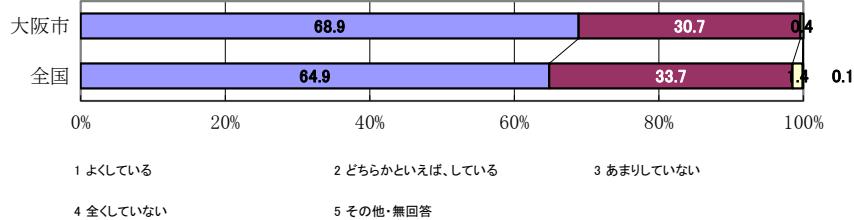
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号  
質問事項

18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

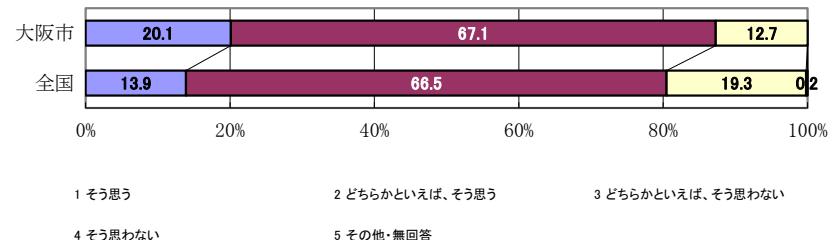
学校 「どちらかといえば、している」を選択



26

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

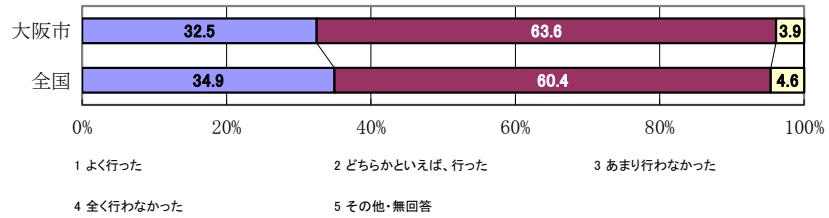
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



31

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

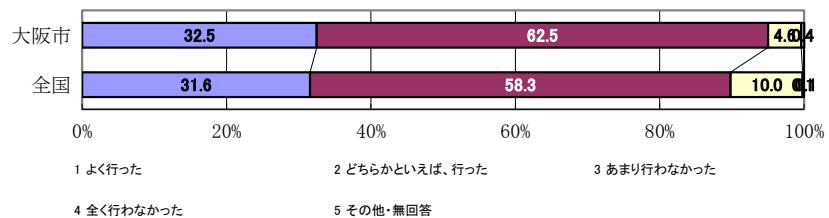
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



32

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

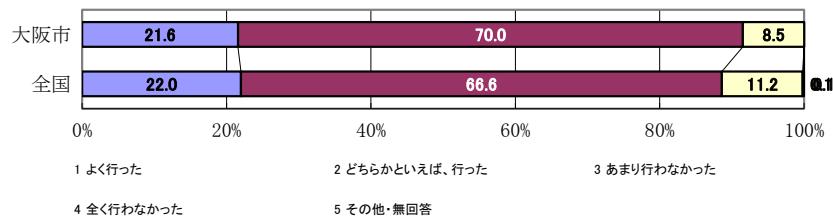
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



33

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択





## 学校質問より

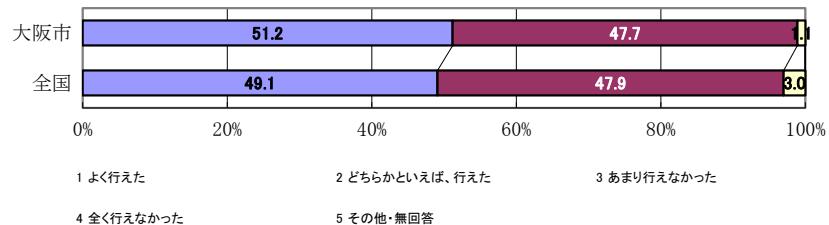
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号  
質問事項

48

調査対象学年の児童に対する  
算数の授業において、前年度  
までに、授業で、学習上つま  
ずいた児童に対する対応を行  
えていましたか

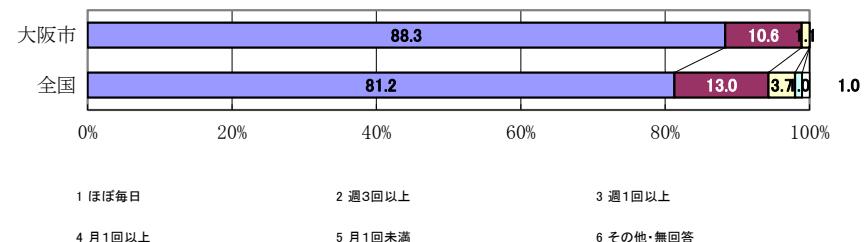
学校 「よく行えた」を選択



55

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行  
いましたか

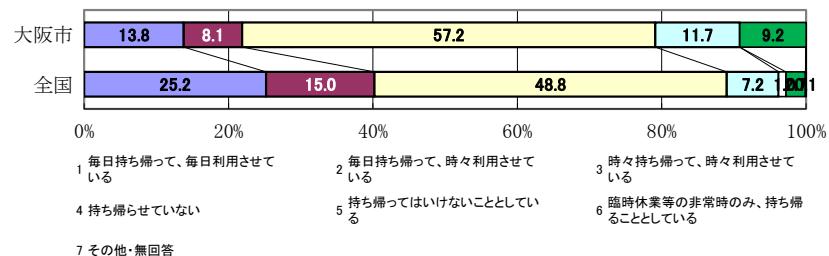
学校 「ほぼ毎日」を選択



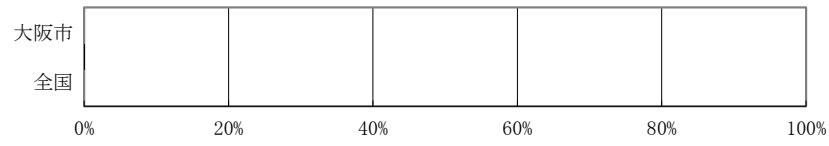
66

児童一人一人に配備された  
PC・タブレットなどの端末を、ど  
の程度家庭で利用できるように  
していますか

学校 「持ち帰らせていない」を選択



学校 「」を選択



学校 「」を選択

